

# ミステリ読書案内

2023. 6. 29 発行元

第492号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## 島田一男の代表作

戦後すぐに活動を開始し、TVドラマの原作者としても広く知られた島田一男。その代表作について考える。初期の頃は「本格謎解き」にも挑戦し、「新聞記者もの」「刑事もの」と幅広い作品を数多く残した作家。

### NO.3 「鉄道公安官」

1960年、『EQMM日本語版』に載せたものを一冊にまとめたという。私の手元にあるのは1984年の徳間文庫版。このシリーズに含まれる作品はたくさんあって、明確な書誌は出ていないのでは…。この後のトラベルミステリにつながる部分もあり、いかにも島田一男らしい作品群と言える。

表題作の『鉄道公安官』は急行「出雲」車内での出来事。シリーズの主人公・鉄道公安官・海堂次郎が掏摸集団の摘発を目指して乗り込んでいた。列車の中から東都工業大学の久保保助教授が姿を消した。調べてみると久保保助教授と石油企業との結びつきが明らかになる。そして連続殺人事件に発展し、久保保助教授も水死体となって発見されることに…。

### 探偵小説界の戦後派五人男

島田一男は、山田風太郎、高木彬光、香山滋、大坪砂男とともに「探偵小説界の戦後派五人男」と呼ばれ、戦後いち早く活動を開始した作家である。満州で従軍記者をしていた関係から『事件記者』『社会部記者』のような“新聞記者もの”を得意とするのだが、初期の頃は「本格謎解き」にも積極的に取り組んでいた。

今回は初期の「本格もの」の中から『錦絵殺人事件』と『上を見るな』を選んだ。『古墳殺人事件』も考えたのだが、本棚の奥底にでも入ったのか本が見つからなかった。

三番目は「記者もの」と思ったのだが、『事件記者』にしたところでさまざまな出版社から出ているようで、内容も定かでない。「書誌」そのものが明確でないのだ。NHKのテレビドラマの脚本として書かれたものも多く、私には定番を決めることが出来ない。

『部長刑事シリーズ』とか『捜査官シリーズ』のような警察ものも島田の代表的な作品なのだが、ミステリとしての出来がよいかと言われるとちょっと自信がなくなる。ということで、三番目には『鉄道公安官』を選んでみた。大衆ミステリのひとつとして読んでいただければ…。

### NO.1 「錦絵殺人事件」

1949年扶桑社。戦後に活躍を始めた島田一男にとって前年の『古墳殺人事件』に続く長編第二作になる。私の手元にあるのは1964年の春陽文庫版。その後徳間文庫版が出ている。春陽文庫は文庫本であるにも関わらず上下二段組みの印刷で、今の若い人たちから見れば違和感を感じるかもしれない。『古墳殺人事件』からの流れで、少年タイムス編集長の津田皓三と検事・小原喬二がコンビを組んで探偵役となる。島田一男作品の中では最も「謎解き」要素が強い。

目次を開くと、最初の『ネズミの洞から知盛が』から始まり、最後の『義経は生きていた』までが並んでいて、義経伝説に絡んだストーリーだということがわかる。津田と小原が神奈川県高座郡相模野台地へ断層見学に出掛けて道に迷い、雨を避けようと思った破れ堂で日南政輔という人物に出会うところから始まる。日南は元の子爵・鬼頭竹彦の屋敷に泊まるように勧めてくれる。折しも元子爵は二ヶ月前に行方不明になっていて、家人は死亡したとみなして遺言状を開封しようとしていたところだった。立ち会っていた弁護士の白川が密室の中で胸を刺されて死亡し…。遺言に絡んだ「錦絵」の謎が津田と小原の前に提示される…。

### No.2 「上を見るな」

1955年講談社書下ろし長編探偵小説全集の第五巻として刊行されたもの。私の手元にあるのは1973年の春陽文庫版。その後光文社文庫版も出ている。南郷弁護士シリーズの一卷として書かれている。島田一男作品の中では「謎解き」の要素が強く出ている作品。

南郷次郎弁護士は、長崎県千々石町虻田というところへやってくる。その地に住む虻田章次・劍子夫妻から一族の跡継ぎを決める親族会議に参加してほしいとの依頼があったためである。虻田家は平安時代の藤原秀郷から続く名家であり、そこには南郷の大学時代の友達・虻田弓彦も暮らしていた。地方の名家の跡継ぎ争いに絡んで起きる連続殺人事件の形式は、横溝作品を思わせるこのころの定番の設定。当主は虻田一角斎。先妻との間には旗江(夫は永次郎)と劍子(夫は章次)の二人の娘がいる。後妻との間には三輪子がいて、それとは別に連れ子である寒三郎もいる。南郷の学友の弓彦は先代当主の子という複雑な構成である。南郷は長崎へ向かう列車の中でデッキから突き落とされそうになる嫌な出だし。そして、到着すると永次郎が殺され…。おどろおどろしくはならず軽いテンポで話は進んでいく。果たして南郷の名推理の行方は…。